

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

日産のサステナビリティ

GRI102-11 GRI102-15 GRI102-16 GRI102-46 GRI103-1 GRI103-2 GRI103-3

サステナビリティ戦略

日産の考えるサステナビリティ

日産は「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」というコーポレートパーパスを掲げ、信頼される企業として、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、その目に見える優れた価値を、すべてのステークホルダーに提供します。

グローバルなあらゆる事業活動を通じて企業として成長し、経済的に貢献すると同時に、世界をリードする自動車メーカーとして、社会が直面する課題の解決に貢献することも私たちの使命です。日産は、お客さま、株主、従業員、地域社会などすべてのステークホルダーを大切に思い、よりクリーンかつ安全で、持続可能なモビリティの実現を目指し、社会の発展に貢献していきます。

コーポレートパーパス

「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」

社会の課題分析と重要課題の特定

日産では、社会や環境における課題を定期的に経営会議体で論議し、日産がグローバル企業として、また自動車メーカーとして、グループ会社全体で取り組むべき重要課題を特定してサステナビリティ戦略に反映しています。また、ステークホルダーの懸念や関心、技術の革新などの最新動向を踏まえながら重要課題を見直し、サステナビリティ戦略の策定に織り込んでいきます。企業における人権の取り組みについて期待が高まる中、日産が取り組むべき人権課題を明確にし、さらに事業戦略・事業活動と照らして重点分野を定義して取り組みに着手しています。

*人権に関する取り組みのハイライトはこちらをご覧ください
[>>> P13](#)

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

サステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」

人口構成の変化や、都市化の進行などのメガトレンドは現代社会に大きな影響を与え、モビリティへの需要が世界各地で増大しています。また自動車業界では技術革新が急速に進み、これまでにない大きな変革期を迎えています。こうした社会の変化に対応し、新たな価値を提供するイノベーションを牽引すべく、日産は2018年にサステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」を定めています。「Nissan Sustainability 2022」は「E (Environmental : 環境)」「S (Social : 社会性)」「G (Governance : ガバナンス)」の側面 (重要な項目)で日産の取り組みを明確にし、企業としての持続可能な成長を目指すとともに、社会の持続可能な発展に貢献する取り組みについてあらためて示したものです。

GRI102-47

Nissan Sustainability 2022 の重要テーマ : 「ゼロ・エミッション」「ゼロ・フェイタリティ」社会の実現を目指して

クルマの普及に伴い、多くの人々がモビリティによる利便性や運転する楽しさを享受していますが、一方で、温室効果ガスの排出量や交通事故は喫緊の課題となっています。世界をリードする自動車メーカーとして日産が目指しているのは、新車走行中のCO₂ 排出量をゼロにする「ゼロ・エミッション」と、日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」の

実現です。多様な人財一人ひとりが力を発揮するとともに、中長期に成長できるインクルーシブな (多様性を受容できる) 組織を構築し、その実現を目指していきます。

コーポレートパーパス
人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。



環境 : 日産は「人とクルマと自然の共生」という環境理念のもと、社会的要求かつ長期視点に基づき環境課題の解決に貢献します。

ニッサン・グリーンプログラム 2022

・中期環境行動計画「ニッサン・グリーンプログラム 2022 (NGP2022)」を通じて、「気候変動」「資源依存」「大気品質」「水資源」の4つの課題に取り組めます。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

社会性：日産はあらゆるステークホルダーの権利を尊重します。

交通安全

- ・日産車のかかわる死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」を究極の目標に、自動運転技術をはじめとする安全技術の開発と投入を進めます。

ダイバーシティ&インクルージョン

- ・性別、国籍、民族、人種、世代など、さまざまな背景からなる多様な人財一人ひとりが、力を最大限発揮し、持続的な成長とイノベーションを創出しているインクルーシブな組織を構築します。

品質

- ・お客さまの声を第一に、世界中でトップレベルの製品やサービスをお客さまに届けます。

サプライチェーン

- ・人権や環境などに配慮した持続可能なサプライチェーンの構築を目指します。

従業員

- ・従業員一人ひとりが自ら継続的に学び、その可能性を最大限発揮できるよう、いつでもどこでも学べる機会を提供します。さらに、従業員の健康と安全を第一に、活力のある職場づくりを目指します。

地域社会への貢献

- ・「環境」「交通安全」「ダイバーシティ」に関連する地域社会への貢献活動を通じ、「よりクリーンで安全、そしてすべての人に平等な機会が与えられる社会」を目指します。

ガバナンス：日産は法令とルールを遵守し、公平・公正で透明性を持った事業活動を行います。

コーポレートガバナンス・内部統制

- ・グローバルでのコンプライアンス体制を整備するとともにガバナンスを強化し、法令遵守と高い透明性を持った事業活動を推進します。

重要な報告テーマの選定

日産ではサステナビリティにかかわる考え方や取り組みをより多くの皆さまにご理解いただくため、「サステナビリティレポート」としてまとめ、毎年公表しています。情報を広く社会と共有することで事業活動の透明性を高めると同時に、社外からのフィードバックを通じて改善を図り、今後もさらに持続可能な社会の発展に寄与したいと考えています。

報告テーマは、事業活動への潜在的な影響とステークホルダーの関心度を評価基準として選定しています。事業活動に対する潜在的な影響は、これまで認識された課題に加えて、サステナビリティに関する各種ガイドラインの内容やトレンド、自動車業界内外での国際的な直近の取り組みなどを参考に把握し、ステークホルダーの関心については、社内外のステークホルダーへのインタビューや外部コンサルタントによる分析を適宜実施し、把握しています。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-12

GRI102-21 GRI102-40 GRI102-42 GRI102-43 GRI102-44

「国連グローバル・コンパクト」に署名

日産は国際的なガイドラインや協定に積極的に参画しており、国際的なポリシーや基準を尊重して事業活動を行っています。

日産は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に、2004年から参加しています。国連グローバル・コンパクトは、国連のコフィー・アナン事務総長（当時）が1999年に世界経済フォーラム（ダボス会議）で提唱した、企業による自主行動原則です。

日産では、国連グローバル・コンパクトの10原則に基づくさまざまな活動を一層強化するために、サステナビリティマネジメントを進めています。

国連グローバル・コンパクトに関する詳細はこちらをご覧ください
<http://www.ungcn.org/gc/>



ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーとの対話

日産では、日産の事業が存続するうえでかかわりのある個人または団体をステークホルダーと位置づけています。

日産は、企業活動と社会的要請のベクトルを一致させた経営を目指しており、そのためにステークホルダーの声に耳を傾け、信頼関係を構築しながら、社会の声を企業活動に反映させることが重要だと考えています。より多くの声を取り入れるために、ステークホルダーとの対話を図る多様な機会を設け、オポチュニティとリスクの芽を見いだす活動を行っています。こうした対話を本社はもちろん、事業所や海外拠点においても実施し、確実に社内フィードバックする体制を構築しています。

ステークホルダーとの対話における具体的な事例は本レポート内で紹介しています。

日産を取り巻く
ステークホルダーとの
対話の機会



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

ステークホルダー	ステークホルダーとの対話の機会	ステークホルダーの関心事、主なテーマ
お客さま	問い合わせ窓口、ディーラー窓口、ウェブサイト、ショールーム、イベント、お客さまアンケート、TV・雑誌・SNSなどのメディア、オーナーズミーティング、アフターサービス、メール配信サービス	<ul style="list-style-type: none"> ●製品やサービスの品質 ●お客さまへのサポート
従業員	問い合わせ窓口(社内通報制度)、イントラネット、社内イベント、面談、各種アンケート(調査)	<ul style="list-style-type: none"> ●会社の業績や課題 ●社内ダイバーシティ ●職場環境 ●キャリア、教育
サプライヤー・ディーラー	定期的な会議、問い合わせ窓口、説明会、イベント、各種ガイドライン、ウェブサイト	<ul style="list-style-type: none"> ●公正な取引 ●日産のサステナビリティ方針や中期経営計画、購買方針
株主・投資家	IR問い合わせ窓口、株主総会、決算説明会、IRイベント、取材対応、ウェブサイト、アニュアルレポート、メール配信サービス	<ul style="list-style-type: none"> ●日産の事業戦略、業績、サステナビリティの取り組み
政府・自治体・ビジネスパートナー	問い合わせ窓口、共同研究、業界団体の取り組み、各種協議会、イベント	<ul style="list-style-type: none"> ●法令順守 ●実証実験など公共施策への協力 ●共同プログラムの推進
NGO・NPO	問い合わせ窓口、社会貢献プログラムの運営、寄付、災害被災地支援、イベント、財団を通じた助成	<ul style="list-style-type: none"> ●社会課題の解決に向けた協働や支援
地域社会・将来世代	各事業所問い合わせ窓口、地域でのイベント、工場見学、社会貢献活動、協議会、交通安全啓発活動、財団を通じた助成、寄付講座、ウェブサイト	<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会への貢献 ●企業理念 ●日産のサステナビリティの取り組み
メディア	広報問い合わせ窓口、記者会見、広報イベント、プレスリリース、取材対応、メール配信サービス、ウェブサイト	<ul style="list-style-type: none"> ●企業体制や業績、事業計画の発表 ●サステナビリティ戦略の発表

株主・投資家の皆さまとの対話の方針

株主・投資家の皆さまは持続可能な社会をともに創造していくパートナーです。日産の事業活動を正しくご理解いただくため、株主・投資家向け広報活動(IR:Investor Relations)においては迅速で透明性の高い情報開示を継続的に行うことを基本としています。日産ではチーフファイナンシャルオフィサー(CFO:Chief Financial Officer)を中心に、長期的視野に立つ経営戦略や、競争力を強化するイノベーションの導入、最新の市場動向などの会社情報の適時・適切な開示と継続的なコミュニケーションを通じて、株主・投資家の皆さまと建設的な対話を行い、信頼関係の構築に努めています。また、IR専任の部署を設け、経営企画、総務、財務、経理、法務といった関連部門から必要な情報を収集するなど、適切な情報開示に向けてさまざまな連携を行っています。対話を通じて得られた株主・投資家の皆さまの質問や意見は、担当役員を介して経営陣にフィードバックされ、経営の参考にしています。また、インサイダー取引を防止するため、四半期ごとの決算期末日から決算発表日までの間は決算情報に関する対話を控えています。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションとして、四半期ごとの決算説明会に加え、機関投資家への個別訪問や証券アナリストの取材対応を頻繁に行っているほか、会社主催の事業説明会や証券会社主催のコンファレンスなどを通じて会社の状況などを積極的に情報開示しています。また、証券会社と共同で、個人投資家向けの会社説明会も実施しています。さらに、投資家向けのウェブサイトを運営し、随時最新情報を開示しています。

事業説明会では毎年、投資家・アナリストの関心が高いテーマを選び、各部門・地域のマネジメント層が積極的に情報を提供しています。2019年度は、CEO および独立社外取締役によるガバナンス説明会や、完成検査問題再発防止の取り組みに関する説明会ならびに完成検査ラインを中心とする工場の見学会などを実施しました。

日産への理解をさらに深めていただくため、今後もニーズに合わせた適切な情報開示を実施していきます。

主な株主のエンゲージメント(2019年度)

Q1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時株主総会の開催 ・ 2018 年度決算発表 ・ 第120 回定時株主総会の開催 	Q3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度上期決算発表 ・ アニュアル・レポート2019 発表
Q2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度第1 四半期決算発表 	Q4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度第3 四半期決算発表 ・ 臨時株主総会の開催

株主総会

株主総会は、日産の経営陣が株主の皆さまと直接コミュニケーションをとれる貴重な機会です。株主総会をはじめとするさまざまな交流を通じて、株主の皆さまの意見に十分耳を傾けるとともに、疑問に対しても適切な説明をすることで、信頼に応えていきたいと考えています。

第120回定時株主総会は、2019年6月25日、パシフィコ横浜で開催され、2,814名の株主の皆さまにご出席いただきました。

また、2019年4月8日にグランドプリンスホテル新高輪、2020年2月18日にパシフィコ横浜にて、臨時株主総会を開催しました。それぞれ、4,119名と、666名の株主の皆さまにご出席いただきました。

* IR 情報に関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.nissan-global.com/JP/IR/>

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

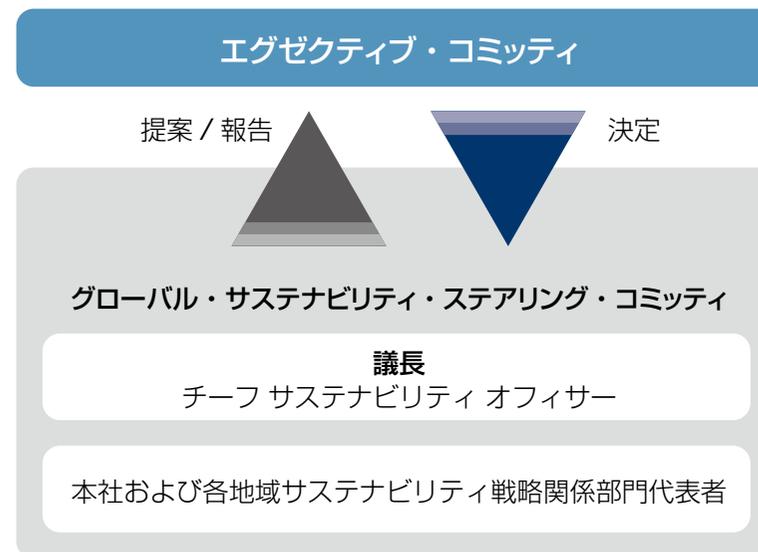
GRI102-11 GRI102-26 GRI102-27 GRI102-28 GRI102-31 GRI102-32 GRI103-2 GRI103-3

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ戦略の目標設定や進捗確認など具体的な活動の社内横断的な管理については、チーフ サステナビリティ オフィサー (CSO: Chief Sustainability Officer) が議長を務めるグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティで議論しています。グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティは年2回開催され、ESG各領域で活動を担う部署の責任者が参加します。各活動は担当部署が責任を持って推進し、その進捗はグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティで報告されます。PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを迅速に回すことで、サステナビリティパフォーマンスのさらなる向上を追求しています。2019年度も2回開催しました。

さらにグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティでの議論は日産の最高意思決定機関であるエグゼクティブ・コミッティ (EC: Executive Committee) に報告・提案され、サステナビリティの方針や今後の取り組みの決定に活かされています。

サステナビリティ戦略に関する意思決定プロセス



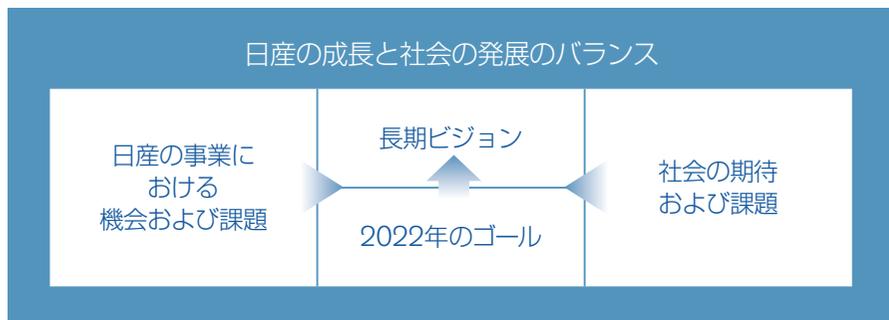
目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-16 GRI102-31 GRI102-47 GRI103-2 GRI103-3

長期ビジョンと2022年のゴール

サステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」を推進するに当たり、ESG (Environmental: 環境、Social: 社会性、Governance: ガバナンス) 各側面の取り組みには、2022年に達成すべきゴールを設定しています。2022年のゴールとは、日産の事業における機会および課題と、社会の期待および課題を踏まえて策定した「長期ビジョン」の実現に向け、2022年時点で達成すべき目標です。各取り組みにおける目標を達成し、長期ビジョンを実現することで、日産の持続的成長と社会の持続的な発展の両立を目指します。

長期ビジョンと2022年のゴールの考え方



各取り組みの長期ビジョンと2022年の主なゴール

ESG 各側面の取り組み	長期ビジョン	2022年の主なゴール	
環境	事業活動やクルマによって生じる環境への依存と負荷を自然が吸収可能なレベルに抑え、豊かな自然資産を次世代に引き継ぐ		
	気候変動	カーボン・ニュートラル <ul style="list-style-type: none"> 新車からのCO₂排出量を2050年までに90%削減する(2000年度比) 企業活動からのCO₂排出量を2050年までに80%削減する(2005年度比) 	<ul style="list-style-type: none"> クルマからのCO₂を削減する:新車からのCO₂排出削減40%(2000年度比:日本、米国、欧州、中国) 企業活動全体からのCO₂排出削減:グローバル販売台数当たりのCO₂削減30%(2005年度比)
	資源依存	新規採掘資源依存ゼロ <ul style="list-style-type: none"> 新規採掘資源への依存を2050年までに70%低減する 	<ul style="list-style-type: none"> 新規資源の使用を最小化する 新規天然資源の台当たり使用量を30%削減
	大気品質	ゼロ・インパクト	<ul style="list-style-type: none"> 車室内の空質環境を改善する:実用化に向けた開発を促進 生産活動でのVOC排出を削減する:塗装面積当たりのVOCを削減(2010年度比)
	水資源	ゼロ・ストレス	<ul style="list-style-type: none"> 工場での水資源利用の削減:グローバル生産台数当たりの水使用量21%削減(2010年度比)

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

ESG 各側面の取り組み	長期ビジョン	2022年の主なゴール
交通安全	日産車がかかわる死者数を実質ゼロにする	日産車がかかわる死者数を2020年までに1995年比で75%削減する
ダイバーシティ&インクルージョン	人種、国籍、性別、宗教、障がい、年齢、出身、性自認、性的指向など、多様なバックグラウンドからなる人財一人ひとりが力を最大限発揮できるインクルーシブな組織を実現し、イノベーションを創出して持続的な成長につなげる	管理職の女性比率を向上する <ul style="list-style-type: none"> グローバル：2023年までに16% 日本：2023年までに13%
品質	製品品質	お客さま視点でトップレベルの品質を目指す
	セールス・サービス品質	すべての主要国においてトップレベルのセールス・サービス品質を実現し、長期的にトップレベルを維持する
サプライチェーン	環境と人権に配慮した持続可能なサプライチェーンの構築を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 当社と取引のあるすべてのサプライヤーが「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」を遵守する サプライヤー環境調査やサプライヤーとの協業を通じ環境負荷の低減を目指す
社会性	従業員の能力開発	<p>日産は、将来へ向かってさまざまな状況に対応できる能力を育む</p> <p>以下の取り組みを通じて、継続的な学習と自己開発を日産の企業文化にすることを旨とする</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己開発のための統合フレームワークの導入 リーダー育成プログラムの最適化 「いつでも、どこでも学べる」デジタルツールの提供
	労働安全衛生	<p>職場での事故ゼロ、疾病ゼロの実現</p> <p>グローバルの労働災害度数率を2022年度までに2016年度比で50%削減する (休業災害件数+不働災害件数)/総労働時間×1,000,000</p>
地域の貢献	よりクリーンで安全かつすべての人に平等な機会が与えられる社会を実現する	環境、交通安全、ダイバーシティの3つの戦略領域に関連する社会貢献プログラムをグローバルで実施する

ESG 各側面の取り組み	長期ビジョン	2022年の主なゴール
ガバナンス	コンプライアンス	<p>コンプライアンス違反未然防止の仕組みを機能させ、日産グループ全体でコンプライアンスの遵守を徹底する</p> <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスリスク領域ごとのモニタリング機能の強化と、その統合的な監督の仕組みを構築する サードパーティを含めた日産のビジネスプロセス全般のコンプライアンス強化を徹底する
	リスクマネジメント	<p>情報セキュリティの維持・強化、情報漏えいの未然防止・被害最小化・透明性維持などを、ベンチマークレベルで達成する</p> <p>情報セキュリティの維持・強化において、新たな環境・領域への対応を含めて、各分野ベンチマークレベルで達成する</p>

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

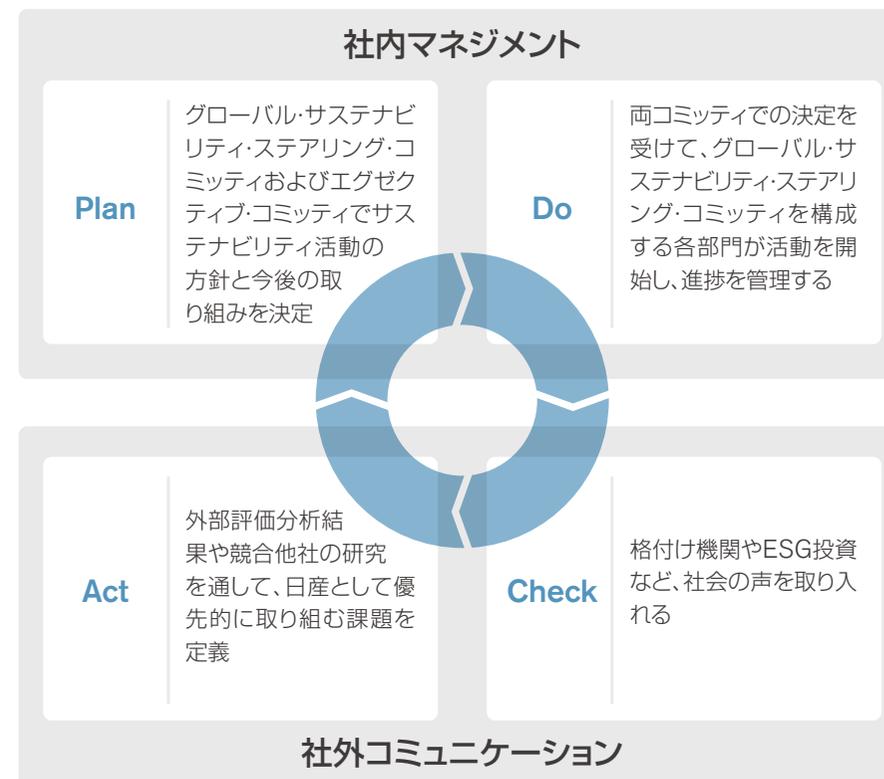
GRI102-29 GRI103-2

サステナビリティ推進のマネジメント

サステナビリティを推進する PDCA サイクル

日産では、グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティおよびエグゼクティブ・コミッティ (EC : Executive Committee) でサステナビリティの方針を決定したうえで、活動の進捗を管理、社会の声の企業活動への取り込み、外部評価の分析に取り組むなどPDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを通してサステナビリティ活動を推進しています。

PDCAサイクル



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

社外からの評価

財務面だけでなく、環境や社会性の観点から企業を評価し、投資対象を選ぶ ESG 投資が注目される中、日産はサステナビリティ経営を推進し、積極的な情報公開に取り組んでいます。日産のサステナビリティへの取り組みは社外からも高い評価を得ています。

FTSE4Good Index Series

FTSE4Good Index Series は英国のフィナンシャル・タイムズとロンドン証券取引所が共同出資する独立企業FTSE社が開発しました。2019年に行われた評価でも引き続き選定されています。



FTSE4Good

* FTSE4Good Index Series に関する詳細はこちらをご覧ください
<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good>

FTSE Blossom Japan Index

FTSE Blossom Japan Index はグローバルなインデックスプロバイダーである FTSE Russell が、ESG (Environmental : 環境、Social : 社会性、Governance : ガバナンス) について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計したものです。FTSE Blossom Japan Index はサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。日産は4年連続でFTSE Blossom Japan Index の構成銘柄に選定されています。



FTSE Blossom Japan

* FTSE Blossom Japan Index に関する詳細はこちらをご覧ください
<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>

CDP 気候変動およびウォーターセキュリティ 2019

環境分野で世界的に権威のある国際的な非営利団体CDPが実施した、気候変動に対する企業の取り組みの調査および水資源に対する同調査において、いずれも最高評価である「Aリスト」企業に認定されました（それぞれ2020年1月と2月に公表）。2部門で「Aリスト」に認定されるのは、日産として初となります。



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

Derwent Top 100 グローバル・イノベーター 2020

クラリベイト・アナリティクスが選定する「Derwent Top 100 グローバル・イノベーター」を7年連続で受賞しました。同賞は、クラリベイト・アナリティクスが保有する特許データをもとに、先進技術や革新技術だけでなく普及につながる技術であるかを分析し、全業種・全世界を通じて最も革新的な企業・機関に与えられます。

